

# 「ひと」×「まち」×「さと」が織りなすSDGs未来都市 三田

自治体名：兵庫県三田市

<b>1.地域特性と課題及び目標</b>	本市は兵庫県の南東部に位置し、市の南東部には耕作地のある三田盆地が開け、市内を貫流する武庫川が肥沃な農地を潤し、豊かな自然に恵まれている。市街地、農村、ニュータウンが共存し、神戸・大阪圏への道路網、鉄道が整備されていることから、都市と自然が隣接する特徴を有する。市域の大半を占める市街化調整区域に位置する農村コミュニティの活力低下と、ニュータウン開発による人口構成の偏り、進学・就職に伴う若者の流出が課題であり、その克服により住み続けられるまちづくりを進める。
<b>2.全体計画の概要</b>	ニュータウン開発により人口急増を経験した三田市は現在人口減少期を迎え、近く急速な高齢化が予測されている。進学・就職による若者の流出という課題を克服しまちの活力低下を抑えるため、多様な主体と連携して地域資源の魅力を最大限に活用した関係・交流人口の拡大と地域の魅力創出を図り、持続可能なSDGs未来都市を目指す。
<b>3.関連するゴール</b>	<b>5.自治体SDGs推進等に向けた取組</b>
	<b>【経済】 新たな雇用と魅力ある“しごと”があるまちの実現</b> <b>&lt;起業・創業に向けた多様な人材の育成と活躍支援&gt;</b> 「ひとづくり」「ものづくり」「まちづくり」の3本柱を総合的に推進し、自律的な経済発展のもと創造性のあるまちの形成を目指す。 <b>&lt;ニュータウンや大阪・神戸圏に向けた「都市近郊農業」の推進&gt;</b> 豊富な種類の作物の生産・出荷、大阪・神戸まで約40分等の本市の魅力を活かし、多様な農業人材を確保し、持続的に発展する農業を推進する。
<b>4.2030年のあるべき姿</b>	<b>【社会】 いつまでも住み続けられるコミュニティの実現</b> <b>&lt;子や孫も「ずっと暮らせる」農村地域の創造&gt;</b> 農村地域の活力・コミュニティの維持や、移住・定住を促進する市街化調整区域における開発許可制度の弾力的運用 <b>&lt;「新たな人の流れ」によるコミュニティ活性化&gt;</b> 農村地域をはじめ市内への人の流れをつくることにより、コミュニケーションから生まれる新たな価値観への気づき、受容、地域の魅力の（再）発見等によりコミュニティの活性化を促す。
<p>「ひと」×「まち」×「さと」が織りなす未来都市 三田</p> <p>本市の魅力である「ひと」「まち」「さと」をそれぞれ掛け合わせるとともに、一枚の布のように織りなすことで生まれる相乗効果を次の時代を創るチカラにしていつまでも住み続けられるまちづくりを進めます。</p> <p>目指す具体的なまちの姿は</p> <ol style="list-style-type: none"><li>①「ひと」のチカラを育み、活きるまち</li><li>②支えあい、安全安心に暮らせるまち</li><li>③三田らしい活力と交流のあるまち</li><li>④「まち」の基盤が整い、暮らしやすいまち</li><li>⑤「さと」の恵みを守り、活かすまち</li><li>⑥掛け算による相乗効果によって生まれる新たな価値観や活力があふれるまちづくり</li></ol>	<b>【環境】 自然が隣接する良質な住環境を守り抜くゼロカーボンシティへの挑戦</b> <b>&lt;「さんだ脱炭素カウントダウン作戦（3⇒2⇒1⇒0）」の展開&gt;</b> 「オール三田で未来を紡ぐゼロカーボンシティの実現」を目指す <b>&lt;さんだ里山スマートシティの取り組みによる「まちの変革」&gt;</b> デジタル技術の戦略的な活用とデータ利活用により、「市民一人ひとりが幸せを実感しながら住み続けられる持続可能なまち三田」を目指す。
<b>6.他地域への展開見込（普及効果）</b>	市街地、農村、ニュータウンが共存する地域特性から市街地の活力低下の課題、高齢化によるオールドニュータウンの課題、農業の担い手不足等多くの地方都市と共通する課題を有する本市が、官民共創など未来を見据えて進める取り組みは他の自治体のモデルケースとなる。